

## 牧師所感：日本宣教の仲間として暖かく迎えられる — 日本人への宣教 53年 —

筆者は韓国人のプロテスタントの牧師である。

筆者が在日大韓基督教団の牧師として叙任された年が1972年であった。以後、正牧師として派遣されたのが教団（総会）の岐阜教会で、4年間を牧会の後、下関教会で牧会した。そして渡米してアメリカのジョージア州のアトランタに次ぐ2番目の都市 Columbus 教会で2年間、牧会をする。そして日本に戻って日本人宣教に今日に至るまで余生を捧げて来た。アメリカでの二年間の牧会は実に楽しく、牧師としての使命にいそ生涯を送ることも可能であった。だが筆者はアメリカでの牧会を思い切って辞し、急いそと本来の使命の国日本に戻って来る。そして在日大韓基督教団の牧師として定年退職（70歳）した。退職後余力があつて、千葉県八街市に開拓教会を建立し、今日まで23年間日本人宣教に力を尽くしている。

さて、以上述べた経緯から、もしかしたら自身の牧会の経験を誇らしげに述べているのではないかと、疑われはしないかと憂える。

しかるに冒頭に述べた如く筆者には、多数の先輩牧師、また同僚牧師（共に日本人）の暖かい愛と励ましを受けてきた。また日本全国に跨って居住しておられる信徒の皆様の愛と励ましを受けて来た。特に心暖まる恵文と志を贈って下さり、筆者を勇気付けて下さった。また感謝すべきは、東京神学大学の先輩であり、現に新横浜の日本キリスト教団牧師、河合 裕志先生の御励ましによって、力を得、老齢牧師である筆者は、神に召されるまで全力を尽くして宣教の使命を果したい。更に河合 裕志 牧師とは、教会週報交換、先生の著書を通して信徒の訓練に励んでいる。次に河合 裕志 先生の友情を証し、日本に宣教に来た牧師を支えて下さる恵みを感謝する。

以後は（日本キリスト教団新横浜教会 2025年3月16日 週報 「牧師室より」）

『主なるイエスよ、わたくしはあなたのために生き、あなたのために苦悶しあなたのために死にます、生きるにしろ、死ぬにしろ、わたくしはあなたのものです』との植村正久の思いを持ち、熊野義孝先生（東神大卒論指導）、阿部寿次先生（西新井教会・授洗牧師）、井上博造先生（最初の赴任地砂町教会主任牧師）、申鉉錫先生（八街グレイス教会牧師）、日野原重明先生、賀川豊彦、内村鑑三、マルチン・ルター、ジャン・カルヴァン、ジョン・ウエスレー等の思いを引継いで、主にあって冷静沈着、勇猛果敢、何者も何事も恐れぬ強き者、堂々たる人間、頑健な肉体の持ち主としてください……』。

以上の先生のお証しは、恐れ多くも筆者を励ます証しとして読みした。深謝する。